

# ちばの地域福祉

厚生労働省「地域共生社会推進検討会」中間とりまとめに注目を

中核地域生活支援センターがじゅまる

センター長 朝比奈ミカ

「我が事・丸ごと」の地域体制づくりを目指した2017年の社会福祉法改正では、附則で公布後3年を目途に包括的な支援体制を全国的に整備するための方策について検討することとされていました。これを踏まえ、今年5月、「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会（地域共生社会推進検討会）」（座長：宮本太郎 中央大学教授）が設置され、中核センターや生活困窮者支援の実践の立場から、私も議論に参加しています。7月19日、検討会の中間とりまとめが公表されました。

中間とりまとめでは、親族や地域社会等のつながりが希薄になるなか、対応すべき生活リスクの一つとして「社会的孤立」の問題が取り上げられました。そして福祉政策の新たなアプローチとして「一人ひとりの生が尊重され、複雑かつ多様な問題を抱えながらも、社会との多様な関わりを基礎として自立的な生を継続していくことを支援する機能の強化が求められている」とし、現行の現金と現物（サービス）給付の制度に加えて、①専門職の伴走型支援により地域や社会とのつながりが希薄な個人をつなぎ戻していくことで包摂を実現していく視点、②地域社会に多様なつながりが生まれやすくするための環境整備を進める視点の双方が重要としています。そして、福祉の対人支援においては、従来の具体的な問題解決を目的とするアプローチと併せて、つながり続けることを目的とするアプローチの機能の充実を求めました。

さらに包括的支援体制の整備促進の具体的な対応の方向性として、①断らない相談支援、②参加支援（社会とのつながりや参加の支援）、③地域やコミュニティにおけるケア・支え合う関係性の育成支援の3つの機能を一体的に具えることが必要と、国はそのために、属性や課題に基づいた縦割りの制度を再整理する新たな枠組みの創設を検討するとともに、財政支援についても市町村が住民一人ひとりのニーズや地域の個別性に基づいて柔軟かつ円滑に支援が提供できるような仕組みを検討すべきとしています。

セーフティネットからこぼれた人たちやつながる力の弱い人たちと出会い、関わりながら、介護や福祉サービス、地域社会での日常的な付き合いにつないできた中核センターの立場からは、中間とりまとめはとても重要な内容を含んでいると捉えています。前述した項目に加えて、参加支援の内容としては居住支援や権利擁護の課題も取り上げられ、孤立した人たちのつなぎ先として、身寄りのない人たちの公的な保証制度なども期待されるところです。しかし一方で、市町村によって取り組みにかなりばらつきが出ることも予想され、中核センター事業要綱に定められた市町村バックアップの機能も意識しながら、取り組みをすすめていく必要性を感じています。

検討会は10月に再開し、参加支援の具体的な内容や包括的支援体制の具体的なあり方、保健医療福祉の担い手の参画促進に加え、広域自治体としての都道府県の役割も議論される予定で、県事業としての中核センターの機能が果たしてきた役割を丁寧に伝える必要があります。

検討会の最終まとめは、年度内にも取りまとめられます。まずは、こうした新しい問題提起の基本的な考え方とその背景をしっかりと理解しておくことが必要と考えています。

# 『ほっとねっと』の地域づくり(松戸圏域)

松戸圏域のほっとねっとでは、相談者の「当事者として地域の社会課題に取り組みたい」という想いを大切にしています。今回ご紹介する2つの集いは、辛さや経験を語り合うことによって相談者自身の気持ちが楽になるだけでなく、同様の経験をしている人達に出会い、相互にケアをしあいたいという相談者の声からできた「当事者会」です。会の発起人は相談者であり、発起人を中心に集いの詳細が固められて行き、ほっとねっとは、他の支援機関と共に運営のバックアップを行います。こうした活動により、当事者会ができたり、ネットワークが強化されるだけでなく、発起人が「困っている人」から「新しい社会資源を創出する人」と変化することを通して、元気になったり、自信がついたりといった効果もありました。

## 『発達障害者の集い』

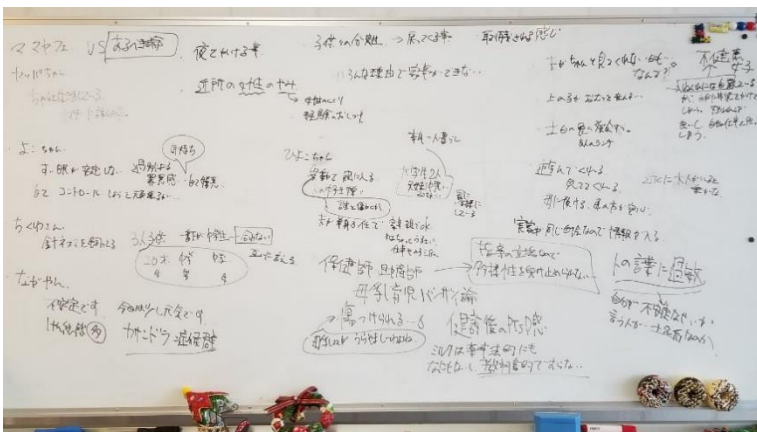
ADHDを抱える方との出会いで生まれた集いです。ほっとねっとは障害者委託相談支援事業所と共に立ち上げのサポートをしました。発達障害に関する情報や悩みの共有が中心です。特に、医療機関の口コミは参加者にとって大きな興味のある話題です。ときには休日の過ごし方や趣味など、発達障害とまったく関係ないことが話題になることも……。発起人は、自由でアットホームな場にしたいという思いがあり、参加者にとって居心地の良い場になっているようです。

参加対象：発達障害の診断がある方、疑われる方、発達障害者のご家族  
開催頻度：1回/1か月 2時間（時間内の途中参加や途中退席は自由）  
参加費：無料

## 『子育てがしんどい ままのカフェ』

保育園に通う1歳半の子どもを育てる、統合失調症のママとの出会いがきっかけでした。発起人と共に都内の集まりを見に行くなど情報収集から始めました。障害者基幹相談支援センターや母子保健領域の支援者、児童福祉所管課などにも協力を求め、参加者を集めたり、会の在り方を検討したりしました。集いの中では自分で決めたニックネームで子育てのつらさ、育てる事・育つ事の難しさ、自分の病気との折り合いなどが温かい雰囲気の中で語り合われています。

参加対象：精神科医療機関に通院し、子育てをしている、もしくはしていた方  
開催頻度：1回/3か月 1.5時間（時間内の途中参加や途中退席は自由）  
参加費：無料（飲み物は持参）



ある日のカフェで語られた内容



カフェの招待状

# 『のだネット』の地域づくり(野田圏域)

地域の皆様に「こころの病」について理解を深め、障がいを持つ人も持たない人も共に暮らしやすい地域社会になることを目指し、平成22年に「こころネット・ハートゆう」を立ち上げました。

この会は野田市内の地域活動支援センター、家族会、子育て団体等で構成されていて、のだネットも立ち上げ時から関わって活動をしています。

主な活動内容としては講演会や映画上映会・当事者活動や家族交流への支援・会員相互の交流や学習会を開催しています。最近の活動では平成28年8月にハローワークの職員を講師に「障がい者差別解消法」について、平成29年2月に佐倉市精神障害者家族会「かぶらき会」の方に「親亡き後の自立プラン」について、同年2月に野田市社会福祉協議会の方に「日常生活自立支援事業と成年後見制度」について、平成30年2月には精神科病院の精神保健福祉士の方に「医療に繋がっていない方のアプローチの仕方」について、講演会や勉強会を開催してきました。今年度の活動は以下の通りです。是非足をお運びください。

## 【参加団体】

- 地域活動支援センターさくら
- 地域活動支援センターのぞみ
- メンタルサポート野田そよかぜ
- NPO法人子育てネットワークゆっくっく
- 中核地域生活支援センターのだネット

こころネット・ハートゆうの映画上映会のご案内

## 「夜明け前」～呉秀三と無名の精神障害者の100年～

日時：令和1年12月8日(日) 13:30～15:00

会場：野田市総合福祉会館 3階 第3会議室(野田市鶴奉5-1)

定員：先着80名

(直接会場へお越しください)

入場料：無料

問合せ先：のだネット(担当：金城)

Tel04-7127-5366

日本の精神医学・精神医療の草分けとされる呉秀三のドキュメンタリー。

呉秀三(くれ しゅうそう 1865-1932年)は、今から100年前の時代に東京大学医学部精神科の教授として異例の社会的な取り組みを進めた先達者である。彼は精神疾患の人々が「座敷牢」に押し込まれる実情を憂い、その解決のために奔走した。

私は公立高校でスクールソーシャルワーカー（SSW）をしています。SSWは生徒が抱えている問題の解決に向けて、福祉の視点から、生徒や保護者と関わりながら、必要に応じて福祉・医療等の関係機関と連携して環境改善の支援を行う仕事です。

複合的な事情や家庭内の困難を抱えた生徒が、一人で問題を抱えこんでしまっただけで支援につながらず、学校への足が遠のくことも少なくありません。

昨年からは、SSWが高校生へのフードバンク食糧支援をきっかけに、定時制高校生応援プロジェクトをスタートさせました。プロジェクトメンバーは中核地域生活支援センターまるっとや、船橋市保健と福祉の総合相談窓口さーくる、フードバンクふなばし、フードバンクちば、市民ネットワークふなばしなどです。開催日には、市民団体の場所を提供していただき、登校前の時間に食品提供と炊きたてのご飯でおにぎりを握り、おしゃべりをしながら、ときには生活相談を行い、そのまま必要な支援につなげることもあります。

高校生と継続的に関わるからこそ、生徒の小さな変化に気がつくこともあります。“人とつながることができる人”になって欲しいという願いをこめて、“つながりやすくする環境づくり”に取り組んでいきたいと思っています。

千葉県スクールソーシャルワーカー 中村 容子

## ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

### 第45回（令和元年度） 県民福祉セミナー なぜ人と人は支え合うのかー「障害」から考える



●日時：11月14日（木）14時15分～15時45分（受付開始13時30分 開場14時00分）

●会場：千葉県文化会館（千葉市中央区市場町11-2） ●参加費：無料 ●定員：1500名（先着順）

●内容：【講演】 なぜ人と人は支え合うのかー「障害」から考える

<講師> 映画「こんな夜更けにバナナかよ」の原作者 ノンフィクションライター 渡辺一史 氏

今年度の県民福祉セミナーは、重度身体障害者と介助ボランティアの交流を描き、映画化された「こんな夜更けにバナナかよ」作者の渡辺一史さんをお招きし、県民の皆さんとともに、障害者について考えることを通して、人と社会、人と人とのあり方について根底から見つめ直し、今後の地域社会の在るべき姿を思い描いていきます。

●お問合せ先：千葉県社会福祉協議会 地域福祉推進部 地域福祉推進班

TEL 043-245-1102 FAX 043-244-5201

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：がじゅまる（市川圏域）市川市大洲1-14-4 東洋荘101

TEL:043-300-9500 FAX:047-300-9509

編集：海匝ネットワーク（海匝圏域）旭市口-838

TEL0479-60-2578 FAX:0479-60-2579